



令和3年度 学校便り

あらたに11月号



文責 長友 裕之

<自分を知り進んで学ぶ子ども>  
<感謝の気持ちを持ち思いやりのある子ども>  
<健康でたくましい子ども>  
<地域・ふるさとを大事にする子ども>

ふるさとに誇りを持ち、自ら学び、豊かな人間性をもった、たくましい子どもの育成

## すみません、草花の原稿ですが、今一度！

「あなたは、『知育・徳育』どちらに重きをおいていますか？」と私自身聞かれたことがあります。そのときは、知育と思いつつも、「徳育！」と言ってしまった経験があります。

みなさんはどうでしょうか？ご家庭での『知育・徳育』とは、家庭内で飛び交う会話でわかります。以下のような会話はよく聞かれるものです。私もそうでした。

子 「今日学校で、3時間目の算数で教科書忘れて、先生に注意されたっやが。」

保護者 「なんで教科書わすれたと、ちゃんと時間割を前の晩にせんかいやが。」



この会話は、まさに「知育」です。つまり「なんで」という知りたい、知りたいの「知育」です。この「なんで」と聞くと、大概、子どもは口を閉ざし、最悪、保護者の尋問が始まることになります。

以前も学校通信にも書きましたが、この「なんで」を保護者が子どもに連発していくと、子どもは言い訳を探すようになり、自分に都合の良いことばかり言うようになります。また、「どうして」「なんで」という問いかけは、過去の原因を追求する言葉、つまりマイナスの言葉かけ、言われた側は責められ、否定されたと感じます。

では、なんて言えば良いのでしょうか。どう言えば、徳育になるのでしょうか。

それは、「～の、なの。」と、語尾に「の」をつけます。つまり「そう、算数の教科書わすれたの。」とさえよいのです。子どもの言葉を復唱して「の」をつけると、子どもは、自分の気持ちが分かってもらえたと思ひ、なぜ、忘れたのかということの説明やそうならないためにこういうふうにするというような改善策まで言うようになるかもしれません。

このような「徳育」の会話で育っていく子どもは、友達との会話でも「～なの」と言い、相手が穏やかな気持ちになり、良好な友達関係が築けていくことは明らかだと思います。

さらに、上記の「知育」の正しい？聞き方は、「どうすれば、忘れ物がなくなるのかな」と聞く、「どうして」から「どうすれば」に変えると、本来の「知育」を育てることになると思います。

まずは、「の」で受け止め、「どうすれば」と問いかけることにより、子どもは自身で解決策を考えるようになります。自分で決められたら（判断力）、それを言葉にする（表現力）、そして、自分で工夫して決めたことはやる可能性が高い（主体性）。まさに、「15の春に」です。

ただし、私たち周囲の大人の粘り強い忍耐力は必要です。もしかしたら、これが一番必要なのかもしれませんね。



## メディア大丈夫ですか？

10月15日（金）の参観日の際にお話させていただきました。退屈に耐えることで、または、その退屈を乗り越えるために「何か遊びを工夫する」ということにチャレンジするとしたら、それは脳の発達にはもってこいです。それが、スマホ（ゲーム・YouTube）に置き換わると、脳の中の大切な回路（特に学習力や生活力）に直接結びついているところが、どんどんダメになってしまいます。



さらに、我慢することは脳の前頭前野＝前頭連合野をきたえることにつながります。これは、子どもの脳の成長には欠かせないものの1つです。

保育所生、幼稚園生、小学校では、退屈と我慢を家で学んでいくものです。学校だけでは無理です。この退屈と我慢が育たずに大人になったらと考えると・・・。

## 11月の行事予定

- 3日（水） 文化の日
- 8日（月） 長距離走練習開始
- 11日（木） ふるさと学習フェスティバル
- 23日（火） 勤労感謝の日

## お知らせ

10月6日・12日とあり方検討会が開催されました。今後も開催される予定です。  
この会の中でもでました、M2 学習の参観については現在計画中です。